① 将来の高分子材料

神 原 周*

9月のはじめに日本をとび出し、ロンドン郊外の Life Science Research その他いくつかの研究所を訪ね、スコットランドの Aberdeen で高分子の国際シンポジウムに参加し、チェコのブラハにとんで世界ゴム会議に出席した。いまブラハからロンドンに戻る飛行機の中でこの原稿を書いている。

私はいつも外国を旅するときにその行くさきぎぎの国の歴史の中から何が生まれ、それがどのような方向にうごきつつあるかをとらわれのない眼で見、考えたいとねがっている。それはまた遠くはなれた祖国の将来を想うのにもたいへん役立つような気がしている。

◎

いま欧米のいわゆる先進国を歩いて感じさせられることは、物質文明の行きづまりとそれの打開についての模索ということである。ちょうど私がブラハにいたおなじ週にブラハで環境動物学の国際会議が開かれていた。偶然ホテルの食堂でその会議に出席された東京医科歯科大の今立教授とご一緒になったが、教授のお話ではその会議で山の中まで自動車道路を建設することが、世界の動物にいかにか影響しているかという問題が討議されたそうである。

◎

世界各国とも物質を生産し、消費する密度……これには対人口当り、対時間当り、対面積当り、いろいろな分母が考えられ、それを論議することも重要な興味のある問題だが、ここではその余裕がない……その密度が高くなればなるほど自然は破壊され、人間生活に大きな影響が現われることを体験している。よほどの低開発国でない限り、その影響がいかにかすまじいものであるかを見のがしてはいられない。

しかしまたそれら物質的な開発が人間の衣食住、健康な生命の維持に大きく寄与したことをみとめざるをえない。いまそれらの収支計算を冷静に再検討し、正しい人間の生きる途を意欲することが近代に課せられ

ている大きな課題である。

いたずらな生産活動の拡大、消費の詠歌、資源、エネルギー、労働力の枯渇をも省みない特定国家、企業体、機関の利潤の追求、そういったことが許されない時代にいまわれわれは入りつつある。その中で将来の高分子の科学、技術、それが生み出す高分子材料を思索しなければならない。

◎

いろいろな発言はすでに各方面でなされている。

将来の産業構造はより国際分業型になるであろう。それぞれの資源は原産地精製に進み、それによって資源、エネルギーの利用効率には全地球的にはるかに高くなる。高分子材料もそのような産業の一部として開発され、成長するであろう。あるいは知識、技能の集約型産業が発達し、新しい高次の機能高分子材料が大きな市場をひらくという予測もされている。おそらくそれらは着々と実現し、成長していくにちがいない。

しかし、もう少し掘り下げて考えるならば、いま世界中の人間が苦しみ、さがし求め、それを打ち立てようと大きな犠牲を払いながら実験している新しい人間社会は単なる物質的な豊饒だけでなく、それと調和のとれた精神の豊かさを併せもったものとなることを熱望している。将来の高分子材料というものはそのような新しい社会において人間が必要とするものであるにちがいない。

◎

少し飛躍した表現で具体的なイメージを明らかにするには言葉が足りないが、より芸術的な高分子材料、より宗教的な高分子材料、より倫理的な哲学的な高分子材料、そういったものの研究、開発に多くのエネルギーが投入されることが人間を心から豊かにすることに役立つであろう。

ジェット機はロンドン空港にむけて降下をはじめたようである。初秋のロンドンも昔よりはるかに澄んだ青空におおわれている。(1973-9-21)。

* Shu KAMBARA 潤滑油中央技術研究所 (273 船橋市日ノ出町9) 所長・工博、本会会長